

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 奈良県橿原市立畝傍中学校 (※正式名称を記載)  
 種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 634 - 0045  
奈良県橿原市石川町 204

E-mail unechu@mahoroba.ne.jp

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 341 名 女子 316 名 合計 657 名  
 幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～15 歳

## 3. 活動内容

「本校は、生徒たちに人権問題についての正しい理解と認識を培い、部落差別をはじめ、一切の差別をなくしていく意欲と行動力を持てるように育てる。」ことをテーマとして、人権・平和・環境・共生・命について正しくとらえ、身のまわりの差別に気づき、学級集団の中で解決しようとする力をつける。

### (1) 活動の概要 《全学年共通》

地域や身近にある問題と関わり、授業だけの取組にとどまらず、現代社会

2017年度 人権総合学習ベーシックプラン

	1年	2年	3年
4月	思いっきり自己紹介	思いっきり自己紹介	思いっきり自己紹介
5月	海洋実習に向けて	校外学習に向けて	☆国際理解学習 ・韓国・朝鮮との出会い ・アジアの国々との出会い ・在日コリアンの現状 ☆進路学習 ・高校訪問に向けて ・高校調べ
6月	☆障がい者問題学習 ・福祉ボランティア体験等 (反戦平和学習)	☆国際理解学習 ・韓国・朝鮮との出会い ・アジアの国々との出会い ・在日コリアンの現状 (反戦平和学習)	
7月	(反戦平和学習)	(反戦平和学習)	(反戦平和学習)
8月			・高校等体験入学 オープンスクールに参加
9月	体育大会に向けて	体育大会に向けて	体育大会に向けて
10月	☆地域学習(部落問題学習) ・洞村学習 ・地域の人々との出会い 他	☆職場体験学習 ・職業調べ ・労働学習 ・職業人のナマの声を聴く	☆進路学習 ・将来を見ずえて ・夜間中学や定時制高校に学ぶ ・奨学金制度を知る ・あおぞらの生徒の進路について ・ゲストティーチャーに学ぶ
11月			
12月			
1月	☆命の学習 ・性教育 ・命について学ぶ	☆部落問題学習 ・差別の現実に学ぶ ・結婚差別など ・LGBTQ差別 修学旅行に向けて ・修学旅行実施	畝中生活総括 ・文集づくり ・答辞作成など
2月			
3月			

の課題を自らの問題として捉え、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって人権感覚を培い持続可能な社会を創造していくことを目指す。

(1年) 地域の人々や文化や自然との出会いを通じて、さまざまな人権課題を考えていく活動

- 地域学習（ほら村学習）

江戸時代から続いていた天皇陵整備が明治になって加速し、神武天皇陵が拡張され洞村が移転の途上や移転後、さまざまな差別排斥を受けたが、むらのリーダーたちが村民の生活を守り、産業を育成し、地域をあらゆる角度から改善するため、献身的な努力奮闘の末成し遂げた大事業でもあった。地域改善運動に取り組んだ先達の「誇りうる地域教材」として洞村移転を学ぶ。

- 障がい者問題学習

「障がい」者を差別することばとして、「ガイジ」発言が小学校の頃から使われているという課題に向き合っ、「障がい」者問題を理解する。「障がい」を持つ人たちと関わり、共に生きていくためにはどうすればよいのかを考える。生活と地域経済との関わりに気づき、職業調べや福祉・ボランティア学習を通して、「障がい」者問題・高齢者問題について考える。2015 行われたパラリンピックにも、目を向け視野を広げていって、2 学期6月にパラリンピック陸上競技で活躍された山本さんに来校して頂き、夢をもつ大切さを学んだ。授業では実際にパラリンピックの金メダルを触らせてもらうなど、生徒との距離も非常に近く接して頂き、とても良い経験になった。

- 命の学習

命と食との関わりについてDVDを用いて学習した。その後、梅本先生から食育についての学習をしていただいた。「いのち」を考える授業という流れで、「天国のたかしくん」絵本「みらいへ」のDVDを鑑賞し、命のつながりについて考えた。その後、「命の授業」として助産師さんに来ていただき、お話を聞かせていただいた。

- 1年生の活動

2月に入り「スロープ作成」プロジェクトの立ち上げ生徒昇降口・体育館側出口通路のスロープの老朽化と安全性の向上の向け架け替えするため、生徒に呼びかけを行い、作成チームを立ち上げた。その後、スロープの材料を購入し、組み立てた。

(2年) 体験的な学習を通して、差別をなくす意欲と力を高める活動

- 国際理解

A L Tから母国であるイギリスについて、文化や習慣の違いについて話を聞く。その後、本県に暮らす外国人の児童生徒の中には、日本語能力が十分とは言えず、言語や習慣・文化の違いから、日常及び学校生活を円滑に送っていく上で、困難をかかえている場合があることを学ぶ。

- 職場体験

12月8日、9日の職場体験にむけて、職業に対する学習を行った。まず、職場を選択する際に、自分の職業に対する価値観についてのダイヤモンドランキングを考え、班ごとに発表した。また、身近な人の職業について知るために、インタビュー形式で仕事についての質問を行う機会を持った。その後、それぞれがそのインタビューを持ち寄り、班でまとめ、クラス内で発表を行った。10月末に、「仕事のプロに学ぶ」と題して、ゲストティーチャーをお呼びし、講座に分かれてお話を伺った。また、実際に職場体験を経験した3年生に昨年度の体験について語ってもらった。

- 性的マイノリティ（LGBTQ）の学習

2月22日（木）NPO法人きららの木より田崎智咲斗さんに来校、講演していただき、ジェンダーフリー社会の実現に向けて性的マイノリティーへの理解を深める。

(3年) 人権感覚を身につけ、積極的に進路を選択する意欲と力をつける活動

・進路学習

上級学校訪問を各学校が行うオープンキャンパスの中から各自が選んで参加した。そして、受験に対する意識を高めるため、この訪問の重要性について事前に学習を重ねた。また、学校によって時期が異なるため全体の動きや高校への対応など忙しい時期と重なり大変であった。

・畝傍中学校夜間学級の取り組みに学ぼう

- ・事前学習映画『学校』編集版

夜中DVD『申順連<sup>シンズニコン</sup>さんの話～文字は生きるための武器～』

- ・畝傍中学校と夜間学級との生徒間交流



地域学習 (ほら村学習から)



障がい者問題学習 (山本篤さん講演)



助産師さんと呼んで命の学習



非常出口に車いす用スロープ作り



職場体験



LGBTQの講演 (田崎智咲斗さん)

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

教職員のためのセクシュアルマイノリティーサポートブック
-----------------------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

SDGsやGAPなど言葉を使っていないが、今までの本校で培ってきたSDGsやGAPなどと同様の人権を中心とした取り組みを継承しながら、現在に起きていることを踏まえ、常に目の前の子どもたちのニーズに合った内容でどのように展開していくのか。さらに、次への展開についてどのように取り組むのか。各学年でかなり多くの時間をかけ話し合っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

毎年年間計画をたて組織的に学校全体で取り組んでいる。各学年で取り組んだ指導案を蓄積し人権教育部で管理し、計画立案、事業の展開、反省と総括を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価アンケートのなかでユネスコスクールとは限定していないが、人権・平和・環境・共生・命に関係する学校活動の項目で、生徒は6割以上、保護者は7割以上がおおむね理解いただいている結果が出ている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ユネスコスクールとは限定していないが、年3回のPTA新聞や学校新聞に掲載している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

なし

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

なし

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

校舎が古くバリアフリー化が遅れていたが、6年間にわたりユネスコスクールアシストプロジェクトを活用し、校舎の4か所に車いす用のスロープを生徒と共に制作し設置したり、障がい者用駐車スペースを確保することができた。その結果、教職員に対してESDの取り組みを理解してもらう良い機会になった。また、現在2名の生徒が車いすを利用しているが、大変役立っている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

授業においては、基本今年度と同じ取り組みを行って行く予定である。  
授業以外では、来年度に向け地域（校区内の自治会や老人会など）との連携を積極的に行う予定である。現在、校区内の美化作業に校区の自治会と連携して進めていこうと取り組んでいるところである。  
また、校内がまだまだバリアフリー化が遅れているので、生徒と共に障がい者と同じ視点で校内のバリアフリー化を進めていきたいと考えている。例えば、今年度末に便座トイレが各階に増設されたので、設置場所の案内や見える化に取り組んでいきたい。また、これまで上級生が設置してきた車いす用スロープの補修や改修に組んでいきたいと考えている。